

理事長 彦坂健一郎

集団の中で生きていく為に必要なベーシックな価値観というものを、人は、何時頃、誰の力によって身に付けていくのか、を考えてみました。

最初にその役割を担うのは、親だと思います。子を育てると言う営みの中で親は様々な形で子をしつけ、子に教え込みます。

次の時代に役割を担うのが教師だと思います。日本では学校教育という仕組みの中で先生が生徒を教育します。教室で、部活で、郊外で。

この二つに平行して、近所(地域)やサークルや友達との付き合いの中で、「先輩」という存在が後輩に対し手本を示し、鍛え、相談に乗る時代と場があります。これが三つ目。

そして四つ目に、職場における、上司の指示、指導があります。

それぞれの時代と場で、上から下へだけではなく、横同士や下からの影響も受け、集団の中で生きていく為の基本的な価値観を人は身に付けていきます。

今回事件を起こした福祉施設元職員は、どの時代に誰からどのようなことをベーシックな価値観として学んでいたのでしょうか。彼が4つの時代に4種類の先達たちから良質の価値観を学んできてさえいれば、今回の被害者達の理不尽な死は避けられたものと思います。良質な価値観とは、私の中では「基本的人権の思想」、「良心や宗教心、神仏の思想」、「社会福祉・社会保障制度の理念と仕組みの理解」を指しています。

私たちは、今、恵和で働く職業人として、上記の4番目の役割を職員相互に担っていると言えます。事件を起こした元職員の価値観のゆがみ、欠けている部分の究明は他者に譲り、私たちが日々恵和で仕事をしていく中で、良質の価値観を相互に学びあうことを地道に実行していくことが大事だと思います。

「話をする。繋がる。支える、支えられる。理解する。受け入れる。」ことが大切なのだと思います。

「私は私、あなたはあなた。とか、余計なことには口を出さない。とか、他人のことは放って置く。とか、自分がよければそれで良い。」などの姿勢の積み重さなりが、職場という4番目の時代と場の持つ役割力を弱めてしまっていないでしょうか。

今回の事件の再発防止を考えるに当たり、私たちの責任として、今私たちが出来ることについて意見を述べました。是非、議論し、前へ進めて下さい。